

第15回網走市選択する未来会議発言要旨（令和6年11月20日（水））

～第2期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略の達成状況について、資料に基づき事務局より説明～

●議長

それでは、説明に関しまして委員の皆様の方からご意見を伺いたいと思います。

まず最初に、「基本目標1 地域づくりを担う組織との協働による、誰もが安心して働くための産業振興と雇用の場の創出」の項目の中でご質問等ありましたらお願いいたします。

○委員

豆類の作付についてはやっているようだけど、もち麦は令和4年度はまだデータがないということですか。

●事務局

実績がないということです。

○委員

実績がないということは、作付していない、もうやっていないということですか。

●事務局

小規模で作付けはしておりますが、統計的に数字に表れるような規模ではないということです。産地化と言えるような状況には至っておりません。

○委員

それで、縮小してきている、あまり前面には出さなくなっていると。

●事務局

生産後の消費、取り引きの部分で目途が立っておらず、作付けを拡大できる状況にないと伺っています。

○委員

項目が多岐にわたるんですが、やはり目標値と大きく乖離しているような、実績値がなかなか追いつかないものもあります。

中心市街の歩行者数なんかは、市役所が2月から運用開始になれば増えていくというところも想像がつかすけども、ほかの部分でちょっと目標の数値と距離があるようなものについては、何かしらやはり新たな対策と新たな施策が必要なのかなという気はしたので、そこについては目標の数値を見直すことも含めて検討する必要があるのかなと思いました。

●事務局

目標1に関わらずすべてですが、計画期間が満了した時点で詳細に検討、分析をいたします。その中で、我々の取り組みが甘かったもの、取り組んだけれども外的要因、環境が変わったがために思うようにいかなかったもの、そもそも目標が高すぎたもの、原因も含めて、担当課と連携しながら、改めて検討してまいります。

○委員

企業誘致の方でお伺いしたいのですが、市として例えばどういう業種にどういう目的で誘致しているかという何か方針というのがありますか。

●事務局

まずは雇用の場を増やしたいというところ。労働人口の確保という側面もありますが、就業場所を増やしていきたいと考えています。生産性を上げて、域内外でしっかりと資金を回せるような仕組みづくりを整えていくというところが大事だと思っております。域内のマーケットを増やすというところと、就業場所の確保というところを一つ大きな目標としていきたいと考えています。

我々の強みの一つは一次産業ですので、例えば食品加工業、あるいは、大学で学んだものを活かせる職種というところが薄いと感じておりますので、そういったところの企業誘致を進めていければ良いという思いはありますが、なかなかうまくいっていないのが現状でございます。

○委員

こちらから発信するのもそうですが、結局企業が来るには企業のメリットが見えないといけないと思うのですが、その辺をいかに企業にアピールできるか。来る意味ですよね。そこがやっぱりなかなか難しいのかなと思うんですけども。

●事務局

企業誘致にあたっては、行政ができることは金銭的な補助というところが一つ。それから、金融機関さんの協力のもと有利な融資、また、利子負担に対する支援というようなことは市の方ではやっております。

それから、立地には土地も必要でございますので、その確保。網走は平場の土地が実は少ないまちでございます。市で持っている平場の土地も実はそれほど無いというところと、あっても郊外だったりしますので、例えば生産したものを流通に回すというところでは、郊外は不利という側面もありますので、そういったところも含めて、総合的に検討していく必要があるだろうと考えております。

○委員

やはり食品系や加工業系が来るとしたら、その後の流通ですよね。道路とかそういったものいろいろ絡むと思うのですが、ただ、やはり事業がないとなかなか人も来ない、あるいは出ていってしまうというのはあると思うので、そこら辺は非常に重要だと思います。

●議長

その他、何か目標1に関してございますか。

よろしいでしょうか。それでは次の基本目標にここで移りたいと思います。「観光や健康・スポーツなど、網走の地域特性を活かした交流・関係人口の拡大」についてご意見、コメント等ありましたらお願いします。

○委員

インバウンドの方というのは、このうちの宿泊者数はどのぐらいいるんでしょう。

●事務局

網走の観光は、春と秋は少なく、夏、それから冬の流氷観光シーズンが多いです。直近の10月の入込みですと、約3,700人程度だったように記憶しています。

あと、それを宿泊にどうつなげていくかというところでは、コロナ禍を経て、一旦閉じたホテルが、なかなか部屋を開けられないという状況がありまして、宿泊者数を飲み込めるキャパシティが少なくなっております。

9月にオホーツクマラソンを3,000人のお客様を招いてやりましたが、全員が網走市内では泊まれておらず、周辺市町に宿泊をして、そこから大会に参加していただいたというようなこともあります。

夏場は特に合宿でお泊りいただくお客様が非常に多いですけども、ここが伸びない要因のとしては、一番大きいところでは実業団のラグビー合宿で、シーズン開始が9月から1月にずれたことがあります。今までですと、9月のシーズンインに向けて、直前合宿で冷涼な網走で調整をしようと、トップリーグに所属する名だたるチームがみんな網走に合宿に来てくださったのですが、シーズンインがずれたことで、九州や沖縄の方に合宿地を変えたという側面があります。それに替わるものとして、現在、女子のサッカーですとか、秋からシーズンに入るようなプロスポーツに働きかけをして、合宿の人数を増やしていこうという取り組みをしているところです。

○委員

女満別空港の入込みがあると思うんですけど、通過点になっているのがありますよね。そこで、やっぱり網走に泊まりたいと思うような何かしてほしいんですよね。

○委員

合宿誘致とかで、網走市から補助というものは出るのでしょうか。

●事務局

宿泊に対する直接的な補助はございません。ただ、合宿にきていただいた実業団には、練習会場までの送迎ですとか、あとは実業団の嗜好にあわせた食事の用意ですとか、そういったところで支援しております。

○委員

大学生以下、高校生も含めて、網走で合宿できないかというところで、当然お金がやっぱ

りかなりかかるので、学生の合宿となったときに、何らかの補助があればもう少し来やすくなるのかなというのはちょっと考えています。

○委員

日体大さんなんかは、大学の方はスポーツやっているので、来る可能性はあると。

○委員

はい。

○委員

芸術文化につきましては、中高生はいろんな吹奏楽とかが来ます。大学生も来るんですけど、大学生というのはバイトなどで忙しくて、呼んでも授業の一環にならずに単位が取れないんです。取れるのが札幌の大谷学園、ここだけは単位が取れるそうですから、毎年来てもらってます。

ですから、来てもらうにも、いろんな条件が重なって、運営額の状況がどのように出せるかなんです。補助にしても、例えば宿泊費にしても、飛行機にしても。それがなかなか、規制があるものですから、要は予算がないんです。予算があれば来ます。

だから、市はこれをやろうと思えば、大盤振る舞いしてくればいいんですが、しないから伸びないんです。それでもいろんな吹奏楽に来てもらうんですが、建物だって吹奏楽に見合うだけの素晴らしい施設があるわけじゃないんです。これは遠軽が素晴らしいので、遠軽に取られますからね。

そういうふうに、網走は非常に弱い立場なので、金をつけるしかないんです。それは言ってるんですがなかなかつかないの、伸びるわけがないんです。

その辺が実情ですが、この数字だけ見たって中身がわからないでしょう。数字は出るけども、問題は中身がどうなっているんだということなんです。どういう問題なのか、そこを徹底的に議論しないといけない。担当している人は中身がわかるんですが、みなさんはわからないでしょう。それで議論しろと言っても難しいです。だから、ここはやはり市役所としても、そういうところはきちっと詳しく詳細に説明して、わかるようにやらなきゃダメなんです。

●事務局

最後はどうしてもお金の話になってしまうんですが、出せるお金も限りがございますので、そのお金をどの分野にどれだけ振り向けるかというところが、まちづくりの肝だと思っております。

合宿の人数を増やすために、そこに手厚く資金を投下しますと、どこかで我慢をしなければなりません。そこは皆さんから広くご意見をいただきながら、どこがベストバランスなのかを探る、まちづくりの課題だと考えております。

○委員

そうですね、お金も無限にあるわけではもちろんありませんので、ただ、どこかに焦点を絞っていかないと、広い範囲で均等にやっていたら全部が手薄になってしまいます。

今、委員がおっしゃったように、例えば個々の項目でもうちよつと詳しいことは、別の場でやられているんだと思うんですけれども、そこから提言を出していただいたほうがいいような、こういう数字だけではなくて、そういった方向でやらないと、なかなかやって終わりになってしまっているような気がします。

どこかをしっかりやっていかないと、本当にこれからどんどん人口減少していく中で、網走市はどこで勝負していくかというのをしっかり出していかないと、先細りになってしまうと思うので、その辺やはり我々もしていかなきゃいけないと思いますので、ご意見いただければと思います。

○委員

どちらかというと、農大のことを考えると、市内に毎年 400 人くらい出てるわけなので、網走市の人口を増やすというところで考えるんだったら、農大から毎年出てる人間をどれだけキャッチできるかというところのほうが、一番手っ取り早く若者を確保できる自治体なんだと思います。実態として、令和 5 年度は 2 人くらい実際市内に就職された方がいたとおっしゃっていましたが、その 2 人がなぜわざわざここに残ったのかという理由は実際聞かれていらっしゃるんですか。

●事務局

個別具体には聞いておりませんが、これまで言われておりますのは、学校で学んだことを活かせる仕事がないというところが一つ。それから、学生の 9 割以上が道外からですが、卒業された方はほぼ皆さん地元に戻られますが、4 年間学んだこの網走の地を、非常に愛していただいております。卒業したあと、やっぱり網走がいいと戻ってきてくださる方も相当数いるようです。ここはカウントできていませんが、残れるならば残りたいという話はよく耳にします。卒業したあと、食べていくためには仕事をしなければいけませんから、先ほどの繰り返しになりますが、学んだことを活かせるような仕事、業種、ここの業界を広げていくというところが、今おっしゃったような卒業生を確保するという点では大事な取り組みだろうと考えています。

●議長

そのほか何かご意見ございますでしょうか。ないようでしたら、次の「基本目標 3 若い世代が健康で、希望に応じて結婚・出産・子育てができる環境づくり」というところですが、何かご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

○委員

子育てがしやすいと感じる割合が 55.8% となっておりますが、どういう点で子育てしやすいというような意見というのはあるのでしょうか。

●事務局

具体的にどの部分で子育てしやすいと感じているか、そういった設問ではないので、何が要因かというのはなかなか分析が難しいですが、これまでの取り組みといたしましては、病後児保育の受け入れを始めたこと、子育て世代包括支援センターの開設、それから、子育て

世帯はとにかくお金がかかりますので、ここの費用負担をどうにかして軽減したいということから、給食費の無償化、高校生までの医療費の無償化、保育料の無償化に取り組みました。ここまで揃えて実施しているまちは、そうそう無いと思っており、かなり尖った政策だと思っています。ただ、実現するとそれが当たり前になってしまいますので、他と比較して網走は子育てがしやすいというところが、思いとしてどれだけ残るかというところはあると思いますが、政策としてかなり尖ったことをやってきていると思っています。

○委員

そういうことがあまり知られていないじゃないですか。人口が増加しているようなところではそういうアピールをして、外部からここで育てたいという人が集まっていますが、内部の人だけに良くて、それは増えていかないですね。網走に来たいと、ここで子育てをしたいと思わせる、そういう意味で自負があるくらいのことをやっているのだったら、どんどんそれを外部にもアピールしたらどうなんでしょう。外から見てここは子育てしやすいというのを知っていただく、そうすることによって外からの人も場合によっては来るかもしれないですし、そういう内向きじゃなくて外向きの発信の必要があると思います。

○委員

僕は子どもがいないもので、あまり子育てに関して詳しくないですけども、出産祝い金が前回倍になっているという点でもいいと思うし、オムツ券も出してますよね。

実は、前回市長選がある前に、今、20代の若い夫婦はオムツを買うのも大変だという話がありました。お母さん同士のグループラインがあって、何百人というんですけど、その中で、オムツが買えなくて困ってるんですが余ってませんかという話になるというところで、オムツを無償配布、引換券みたいな形で出したらどうだろうという話をしてたら実現しました。

そういったところで、若い夫婦、お金がない子育てしてる人たちの支援というところも必要だと思うんですが、先ほどありましたけども、当たり前だと思ってもらうよりは、ありがたい、素晴らしいことだなというふうに広まってくれと、網走で子育てしたいなと思うんだろうけども、当り前に絶対もらえるお金だと思ってもらうのもちょっと違うのかなというふうには今感じました。

●議長

ありがとうございます。その他、何かご意見ございますでしょうか。

出生率も、網走だけではなく全国的に減っている中で、その辺は重要なところだと思います。

○委員

今は待機児童はいないんですよね。

●事務局

おりません。

●議長

よろしいでしょうか。それでは次の基本目標4に進めさせてください。

「東京農業大学、日本体育大学などと連携し、地域を支える人材の育成・確保」の項目の中で、ご質問、コメント等ありましたらお願いいたします。

○委員

なかなか地元には定着しないというのはありますよね。やっぱり受け皿がないということになると思います。

先ほちょっとお話ありましたように、卒業生が戻ってきたいと、あるいは戻ってきたというのはあります。仕事がなかなか見つからなくて北見に行くというようなこともあります。どうすることが市の中でできるかと我々も考えていかなきゃいけないなと思います。

●議長

何かご意見等ございますか。特にないようでしたら、次の目標に進めさせていただきます。

「誰もが活躍し、安心して暮らすことができる時代に合った共生型地域社会づくり」、この目標の中で何かコメント、ご意見等ありましたらお願いいたします。

○オブザーバー

先ほどのところにもつながると思うんですが、やはりインフラって安心して生活することに対してはすごく重要だと思うので、ここに注力しているというのは非常に大事なのかなと思います。

この基本目標の中でも結構いろいろ項目があって、全体的に言えることかもしれないですが、私の率直な感想として、項目が多すぎるのかなというのはあるんじゃないかなというのはあります。それで、結局重点的にやらなきゃいけないところがぼやっとしてしまっ、結果的にぜんぶなあなあというか、本当に満足できる結果になかなかならないんじゃないかという危惧は持ちました。

●議長

ありがとうございます。そうですね、項目が多くて、どうしてこうなったのかなかなか理解ができない部分もあるかと思います。

その他、何かございますか。

○委員

20 ページの公共交通の関係で、路線バスの人数については、実績は55万4千人、どこバスは5万4千人という数字が出ています。これは足しても目標には届いていないんですけども、やはりどこバスの運行、これが今、高齢者の老人クラブとかになると、一番問題になってるんです。始発の時間から終わりの時間が短すぎるということと、待ち時間が長すぎるという、被害というか苦情が実際にかなり出てるんです。

例えば、路線バスに乗ってこのエコーセンターに来て、催し物があって、帰るときにはバスがなくて、タクシー呼んでも、タクシーの台数も限られてるので、帰る道がないと。そうすると、街に出てくるということはかなり不可能と言いますか、高齢者にとっては大変な足

の確保ということになるんだろうと思うんです。

そういうわけで、どこバスを重点的にこれからやるとすれば、バスをもうちょっと増やすとか、時間帯の延長をすとか。特に朝については、高齢者になると病院に行きたいとかで、実際に45分待ちとか1時間待ちというのは出てるんです。そうすると、どこバスに乗れないのでタクシー呼ぶ、タクシーも来ない、じゃあどうすればいいんだと、それでおまけに免許証の返納しなさいというようなことになると、悪循環じゃないかという話も相当聞いてます。この辺をもう少し解決してやらないと、街の中の潤いというか活性化というのは難しいのではないかというふうに私は思っていますが、その辺どうなのでしょう。

●事務局

北海道全域が車社会で、車での移動が基本となる中、どうしても車での移動ができない方にとって公共交通は大事なものだと思います。

路線バスは現在、利用者が多いのは朝の通学時間と放課後の生徒さんが帰る時間帯。この時間帯は、大量輸送という観点から行くと路線バスは非常に有効だと思っています。

日中は乗るお客さんがいないので、ここを有効的に効率的に隔々にまで人を運ぶということから、タクシーと大量輸送のバスの間を埋めるものとして、どこバスを導入いたしました。

ももとは、こんなに使っていただけるとは実は想定しておりませんでした。実証実験から始まって5台で本格運行を始めましたが、路線バスの定期券を持っている人は100円で乗れますという、かなり思い切ったことをやりました。どこバスは学生さんの利用が実は多いんです、学生は路線バスの定期を大体皆さん持っていますので。これを始めてから、ずいぶんどこバスの利用は伸びました。

さらに、どこバスが浸透してきたことにより、観光客も利用することになりまして、結果、乗りたい人が乗りたいときに待たなきゃいけないと、どこバスが混んできたという側面がございます。

それを踏まえて、今年から2台増やして7台体制でどこバスを回していますが、それでもまだ足りないという状況もありますし、それから今委員がおっしゃったような運行時間の問題もあります。郊外については、乗り合いバスで効率的にどうやって人を運ぼうかということと今、実証実験を始めていますけれども、市街地においては、朝と夕方の路線バスを基本としながら、その間を埋めるためのどこバスの位置づけは方向性としては正しいと思っていますので、さらに利活用しやすいように運行時間の拡大が可能なのかなのか。一方で、運転手が足りないという側面もございますので、公共交通をどうやって維持していくかということとは、都市間移動のJR問題も含めて総合的に考えていかなければならないものと考えています。お金も人もかかる話ですので、一朝一夕には解決はできませんが、街のにぎわいの維持ということからも、人が動くというのは大事なことだと思っていますので、ここは引き続き重点的に、別途、個別の計画も持っている分野でもございますので、担当課と連携しながら、さらに深めていきたいと考えています。

○委員

それにちょっと関連するんですけども、さっき街のにぎわいの話が出ましたが、目標値に達していないという部分がありました。私は山の上というか潮見にいるものですから、潮

見の人に聞くと、土曜、日曜に下のほう、四条通りで催事をやっててもどこバスが来ない、あるいは路線バスも間引き運行みたいな形になっちゃうので、降りて行こうとしても行けないという話がかかなり出てるのは事実なんです。だから、その辺をもうちょっと、今おっしゃったように台数が増やせるのかどうか政策的にはわかりませんが、そういう形で、上の人、つくし、駒場もそうですが、住んでる人たちが下に降りられる形のことを考えてやらないと、下のほうの、四条通りのにぎわいというのはかなり私は難しいんじゃないかというふうに思ってますので、その辺の検討はしていただきたいと思っております。

●議長

ありがとうございました。その他にかございますか。

この資料全体を通してなにかもしございましたら。よろしいでしょうか。いろいろご意見いただきましたので、検討してご対応いただければと思います。

それでは議題1は終了させていただきます。ありがとうございました。

続きまして、その他について事務局から何かございますでしょうか。

●事務局

皆さんにご覧いただいております現在の総合戦略は5年間の計画期間で、令和6年度が最終年度のため、来年度からの新しい総合戦略を策定しなければなりません。その策定に向けて、引き続き皆さんから様々なご意見をいただきたいと考えております。草案は現在事務局で作成中でありまして、まだ皆さんにお示しできる段階のものはないのですが、改めて現在の戦略の状況をもう一度お話させていただきます。

～第2期総合戦略の検証と次期総合戦略の方向性について、資料に基づき事務局より説明～

●事務局

皆さまへお願いしたいことが、次期総合戦略のキーワードを出していただきたいということです。どんなことでも構いませんので、ぜひお寄せいただきたいです。

向こう5年間のまちづくりは、これがキーになるんじゃないか、ここに重点を置いてやっていくべきじゃないか、この分野を忘れてないか、これもやるべきじゃないか、こういったことをどしどしお寄せいただきたいというのがお願いしたいことです。

別紙で提出様式をお付けしましたが、これに自由に記載していただいてファックスでも持参でも、メールにベタ打ちで送っていただいてもけっこうです。電話で直接お伝えいただいても構いません。いったん、今月末11月29日を目途に、思いつくまま様々なアイデア、ヒントを事務局に寄せていただきたいと考えています。よろしくお願いします。

●議長（東京農大）

ありがとうございます。今のご説明に何かご質問等ありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。では、11月29日までに、少しでも多くの方、皆さまの仕事されている場所でいろんな方に聞いていただいてもいいかと思いますし、ご意見集めていただいて、ぜひキーワードを提出いただきますようによろしくをお願いいたします。

それでは本日の議題は終了となりますので、会議を終了させていただきますと思います。

皆さま、ありがとうございました。

(以上)